定　期　作　況　報　告

平成26年8月
（8月20日現在）

北海道立総合研究機構　北見農業試験場

１．気象経過

７月下旬:最高気温は平年よりやや高く、最低気温は平年並で、平均気温は平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比122%）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比127%）。

８月上旬：最高気温は平年並で、最低気温および平均気温はともに平年よりやや高かった。降水量は平年よりやや多かった（平年比123%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比77%）。

８月中旬：最高気温、最低気温および平均気温はともに平年よりやや低かった。降水量は平年より多かった（平年比172%）。日照時間は平年よりやや少なかった（平年比72%）。

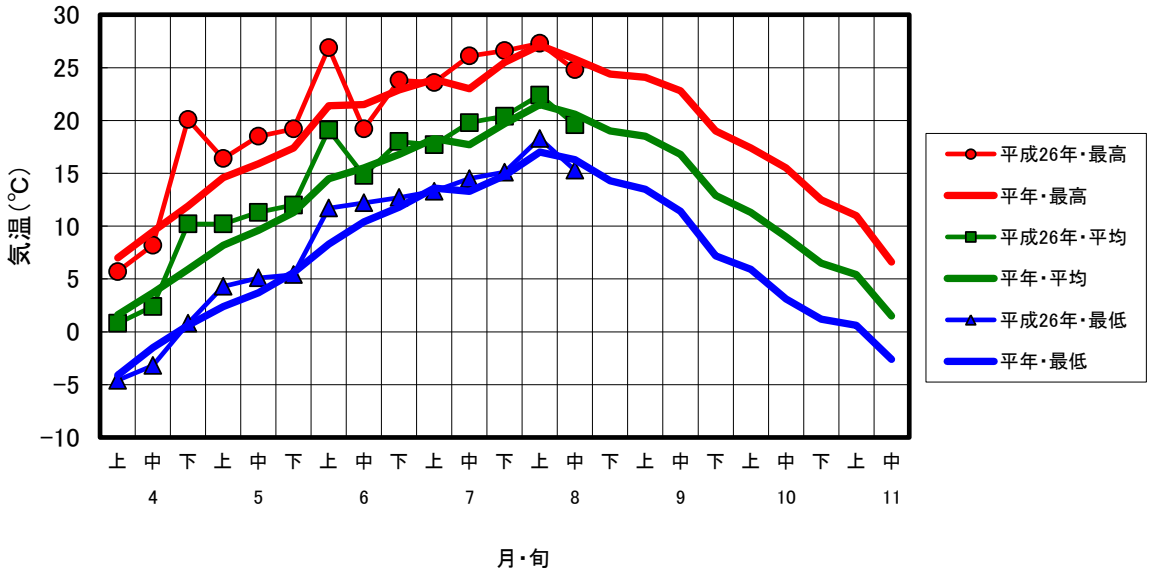
以上のことから、この１か月間（７月下旬～８月中旬）は平年と比較して、気温は平年並で、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

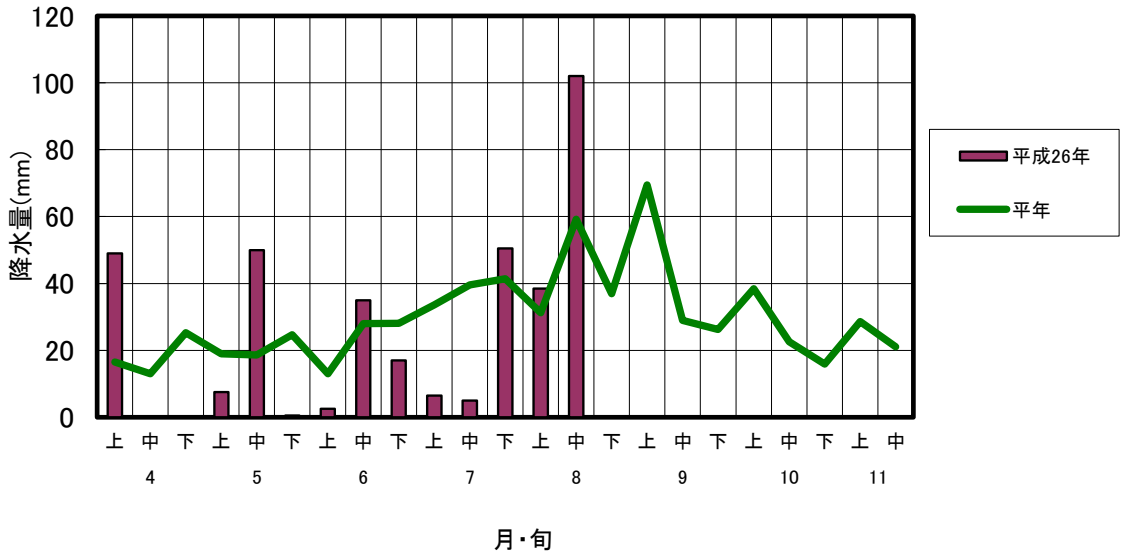
気　象　表

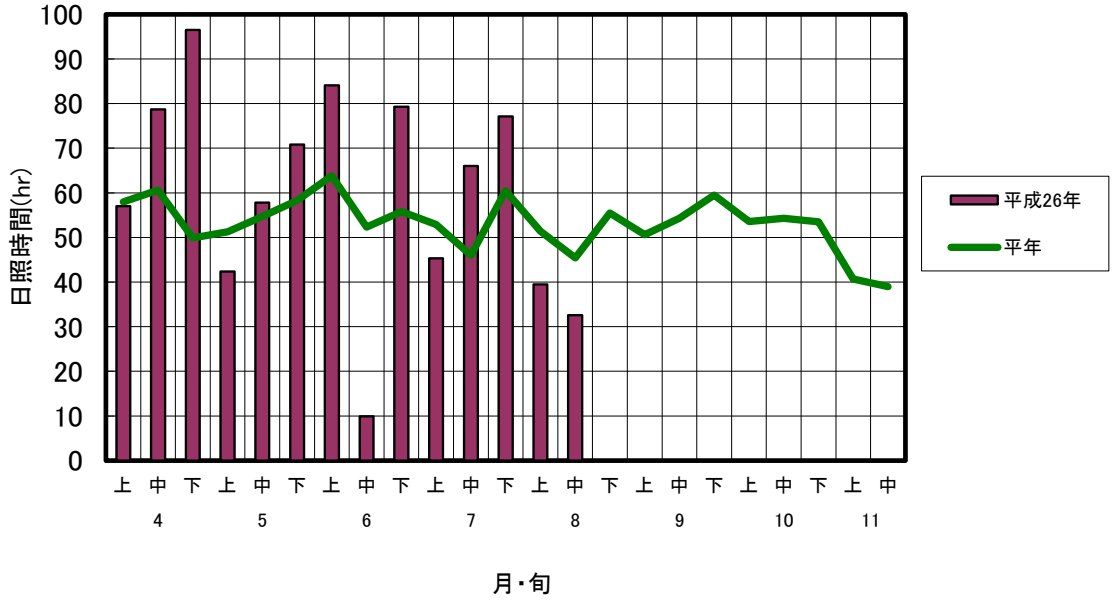
項目 / 月・旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	20.4	19.7	0.7	26.6	25.5	1.1	15.1	14.8	0.3
8月上旬	22.4	21.5	0.9	27.3	27.1	0.2	18.3	17.0	1.3
8月中旬	19.6	20.6	△1.0	24.8	25.8	△1.0	15.3	16.3	△1.0

項目 / 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
7月下旬	50.5	41.4	9.1	77.1	60.5	16.6
8月上旬	38.5	31.2	7.3	39.5	51.4	△ 11.9
8月中旬	102.0	59.2	42.8	32.6	45.4	△ 12.8

注）観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
　　平年値は前10か年間の平均である。


気温(℃)
30
25
20
15
10
5
0
−5
−10
上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中
4 5 6 7 8 9 10 11
月・旬
平成26年・最高
平年・最高
平成26年・平均
平年・平均
平成26年・最低
平年・最低


降水量(mm)
120
100
80
60
40
20
0
上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中
4 5 6 7 8 9 10 11
月・旬
平成26年
平年


日照時間(hr)
100
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中 下 上 中
4 5 6 7 8 9 10 11
月・旬
平成26年
平年

２．当場の作況

注）本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

１）秋まき小麦　　作　況：平年並

事　由：出穂期は平年より３日早く（前報）、成熟期は平年より５日早い７月21日であった。登熟期間が平年より２日短かったが、６月下旬以降の日照時間が平年並から多かったため子実の充実は良好となり、リットル重および千粒重は平年を上回った。子実重は平年比100％であった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
成熟期　（月.日）	7.21	7.26	△5
子実重(kg/10a)	686	686	0
同上平年比（%）	100	100	0
リットル重（ｇ）	801	790	11
千粒重（ｇ）	39.5	36.1	3.4

注）「きたほなみ」の平年値は前７か年中、平成19年（最凶）、25年(最豊)を除く５か年の平均。

２）春まき小麦　　作　況：平年並

事　由：成熟期は平年より７～８日早かった。出穂期が平年より９～10日早かったため、登熟期間は平年よりやや長かった。稈長は平年より長く、穂長は平年並で、穂数は平年よりやや少なかった（前報）。また、倒伏はみられなかった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期　（月.日）	7.31	8.7	△ 7	8.1	8.9	△ 8

注）平年値は前７か年中、平成21年(最凶)、24年(最豊)を除く５か年の平均。

３）とうもろこし（サイレージ用）　　作　況：平年並

事　由：７月中・下旬の気温が平年より高く推移し、日照時間も多かったため、開花期、抽糸期ともに平年より８日早かった。しかし、８月中旬の気温が平年よりやや低く、日照時間もやや少なかったため、草丈、葉数はいずれも平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
開花期　（月.日）	7.28	8.5	△8
抽糸期　（月.日）	7.27	8.4	△8
草丈(cm)　（８月20日）	306.8	315.8	△9.0
葉数(枚)　（８月20日）	15.0	14.6	0.4

注）平年値は前７か年中、平成19年（最豊）、25年（最凶）を除く５か年の平均。

４）大　豆　　作　況：良

事　由：この１か月間は気温と日照時間が平年並で十分な降雨があったため、生育は順調に進んだ。主茎長は平年より長いが倒伏の発生はみられず、分枝数および着莢数は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
主茎長(cm)　（８月20日）	80.0	67.5	12.5
主茎節数　（８月20日）	11.5	11.1	0.4
分枝数(本/株)　（８月20日）	6.7	5.5	1.2
着莢数(莢/株)　（８月20日）	89.2	72.0	17.2

注１）平年値は前７か年中、21年（最凶）、平成23年(最豊)を除く５か年の平均。
注２）着莢数は、莢の長さが２cm以上のものを示す。

５）小　豆　　作　況：平年並

事　由：この１か月間は気温と日照時間が平年並で十分な降雨があったため、生育は順調に進んだ。しかし、いずれの品種も主茎長は平年を大きく上回り倒伏が発生したことから、着莢数の増加がやや抑制され、分枝数および着莢数はほぼ平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		サホロショウズ			エリモショウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm)	（８月20日）	89.1	71.1	18.0	85.3	60.0	25.3
主茎節数	（８月20日）	13.8	13.2	0.6	14.4	13.7	0.7
分枝数(本/株)	（８月20日）	4.6	4.9	△0.3	5.1	4.7	0.4
着莢数(莢/株)	（８月20日）	59.7	59.9	△0.2	60.7	64.3	△3.6

注１）平年値は前７か年中、平成19年(最凶)、20年（最豊）を除く５か年の平均。
注２）着莢数は、莢の長さが３cm以上のものを示す。

６）菜　豆　　作　況：平年並

事　由：この１か月間は平年より降水量がやや多く経過し、倒伏が発生した。このため、草丈、主茎節数および分枝数は平年を上回っているものの、着莢数は増加がやや抑制され平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	（８月20日）	60.6	46.9	13.7
主茎節数	（８月20日）	5.7	5.1	0.6
分枝数(本/株)	（８月20日）	6.3	5.0	1.3
着莢数(莢/株)	（８月20日）	21.7	21.1	0.6

注１）平年値は前７か年中、平成19年(最凶)、23年(最豊)を除く５か年の平均。
注２）着莢数は、莢の長さが４cm以上のものを示す。

７）ばれいしょ　　作　況：やや良

事　由：この１か月間、気温は平年並で、降水量はやや多く推移し、塊茎肥大は順調に進んだ。一方、地上部生育の進行は早く、「男爵薯」では黄変期に達している。「男爵薯」の上いも重は平年を下回っているが、でん粉価は平年を上回っている。「コナフブキ」では、上いも重、でん粉価とも平年をかなり上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目		男爵薯			コナフブキ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎長(cm)	（８月20日）	46	52	△ 6	64	70	△ 6
茎数(本/株)	（８月20日）	3.2	3.7	△0.5	2.9	3.4	△0.5
上いも重(kg/10a)	（８月20日）	4146	4353	△207	4080	3338	742
でん粉価(%)	（８月20日）	16.0	15.2	0.8	23.0	20.3	2.7

注）平年値は前７か年中、平成22年（最凶）、24（最豊）を除く５か年の平均

８）てんさい　　作　況：良

事　由：この１か月間は、気温および日照時間は平年並で、降水量も十分であった。このため、前報に引き続いて生育は順調に進み、草丈および茎葉重は平年並で、その他の項目は平年を上回っている。特に根重は、平年よりかなり重い。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			リッカ（参考）		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
草丈(cm)	（８月20日）	62.6	63.9	△1.3	57.8	59.6	△1.8	59.5	61.7	△2.2
生葉数(枚)	（８月20日）	27.7	26.2	1.5	27.3	25.6	1.7	22.9	21.3	1.6
茎葉重(g/個体)	（８月20日）	898	876	22	889	906	△17	842	764	78
根重(g/個体)	（８月20日）	821	682	139	889	755	134	666	586	80
根周(cm)	（８月20日）	31.9	30.0	1.9	34.0	32.6	1.4	30.9	29.5	1.4

注１）　注平年値は前７か年中、平成21年（最豊）、22年（最凶）を除く５か年の平均。

注２）　直播「リッカ」は参考品種、平年値は前４か年の平均。

９）牧　草（チモシー）　　作　況：不良

事　由：２番草は平年より３日早い８月８日に収穫を行った。１番草収穫後の再生は降水量不足により平年より劣ったが（前報）、７月下旬以降は降水量が平年を上回ったため、生育はやや回復する傾向を示した。しかし、２番草収穫時の生育は、平年と比べ節間伸長程度がやや少なく、草丈は低かった。このため、２番草の乾物収量は平年比91％と少なく、１番草との合計乾物収量も平年比89％と少なかった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
刈取日(月.日)	２番草	8.8	8.11	△3
節間伸長程度	２番草	2.0	2.9	△0.9
病害罹病程度	２番草	2.0	3.8	△1.8
草丈(cm)	２番草	52	59	△7
生草収量(kg/10a)	２番草	949	837	112
乾物率（%）	２番草	18.0	23.1	△5.1
乾物収量(kg/10a)	２番草	171	188	△17
同上平年比(%)	２番草	91	100	
乾物収量(kg/10a)	１＋２番草	704	792	△88
同上平年比(%)	１＋２番草	89	100	

注）平年値は前７か年中、平成21年（最凶）、24年（最豊）を除く５か年の平均。
　　節間伸長程度は、1:無～9:極多。病害罹病程度は、1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

１０）たまねぎ　　作　況：平年並

事　由：試験ほ場全体に地上部の葉先枯れ症状が認められた。倒伏期は平年と比較して、早生種「改良オホーツク１号」では６日、晩生種「スーパー北もみじ」では７日早く、「改良オホーツク１号」の枯葉期は平年より６日早かった。根切りは「改良オホーツク１号」では８月６日、「スーパー北もみじ」では８月19日に行った。一球重は、両品種ともに概ね平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目		改良オホーツク１号			スーパー北もみじ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
倒伏期	(月.日)	7.26	8.1	△6	8.2	8.9	△7
枯葉期	(月.日)	8.16	8.22	△6	－	9.2	－
一球重(g)	(8月20日)	246.6	251.7	△5.1	213.6	226.5	△12.9

注）平年値は前８か年中、平成19年（最豊）、20年（暴風雨被害により成績を参考扱いとしたもの）、25年（最凶）を除く５か年の平均。